

平成 26 年度鈴鹿工業高等専門学校入学式（学科） 校長式辞

本日、春の香りが満ち溢れ、桜花美しき、この良き日、平成 26 年度鈴鹿工業高等専門学校入学式を挙行できますことを、大変嬉しく思います。難関を突破し、入学許可を受け、名実ともに晴れて本校の学生となった学科新入生 205 名、留学生 2 名の併せて 207 名の学生のみなさん、誠におめでとうございます。本校を代表して心からお祝い申し上げますとともに歓迎いたします。

こうして新しい制服に身を包み、初々しさに満ちあふれ、まばゆいばかりの新入生の姿をみていると、校長としても身の引き締まる思いです。私以上に、この良き日を心待ちにされていた保護者の方にとっては、さぞかし感慨無量のこととご同慶申し上げます。私ども教職員は託された責任の重さを改めて認識し、ご期待にこたえるべく気持ちを新たにしているところです。

さて、本校は、1962 年、国立高専一期校 12 校の一つとして創立し、すでに半世紀を経、次なる 50 年に向けて「進化する高専」として歩み始めたところです。1962 年といえば、戦後の荒廃した日本を豊かにするために、高度経済成長が始まり軌道に乗りかけた時期です。高度成長の重要な担い手は工業であるとの認識のもと、全国各地に工業地帯が形成されました。鈴鹿市においても中京工業地帯の一翼を担う地域として大企業のみならず多数の中小企業が立地しました。

高専は当初は中堅技術者の養成を目的に創設されましたが、時代の変化と社会の要請に応え、15 歳の中学卒業生を受け入れる 5 年一貫教育を基本としつつも、大学編入、専攻科の設置、学校の再編統合などを進め、高等教育機関としての性格をより強め、実践性と創造性を備えた地域と世界の両方で活躍する、科学的思考を身に着けた高度技術者の養成に努めるようになりました。

鈴鹿高専においては、当初、機械工学科、電気工学科、工業化学科の 3 学科体制で船出しましたが、いくつかの改組・拡充を経て、現在では、本科は機械工学科、電気電子工学科、電子情報工学科、生物応用化学科、材料工学科の 5 学科により構成され、本科卒業生が進学する専攻科には電子機械工学専攻および応用物質工学専攻の 2 専攻が設置されています。現在、本科生 1061 名、専攻科生 53 名、合計 1114 名、内留学生 11 名となっています。

本校からは、今までに 8000 人近くもの卒業生が巣立っていきました。卒業生の活躍ぶりは、ものづくりを担う企業の社長や幹部として、地元の産業界のみならず国内外においても活躍する人材として、高く評価されています。国立高等専門学校機構がまとめた「活躍する！高専卒業生」に記載されている本校卒業生は国外で精力的に活躍されている方ですが、高専教育の良さは評価しつつも、日本がこれからの厳しい国際競争の時代を生きぬくためには、高い技術力に加えて、「自分は日本を代表している」という気概と、上から目線ではなく人を人として対等に扱い、お互いを理解する態度が必要であると述べています。皆さんが学校生活を終え、社会で活躍する時代は、国内外においても益々外国

の人々や企業と接する機会が増える時代ですので、これから始まる高専生活においてグローバルな視点を持って努力をしていただきたいと思います。

さて、本校は、知・徳・体 三育の全人教育を建学の精神とし、勉学、海外研修、インターンシップ、そして体育系や文化系、各種プロジェクトなどに関する課外活動、さらには高専祭やオープンカレッジなどの各種イベントに積極的に取り組んでいます。私は、校長として 3 年目を迎えますが、昨年も一昨年に引き続き、学生たちの素晴らしい力を確認することができました。各種学会での研究発表会やロボコン、プロコンなどの各種コンテストでの受賞、全国高専・高校体育大会や文芸大会での数多くの優勝・入賞など、様々な分野からの表彰は鈴鹿高専が全国的に高い評価を受けていることを実感できました。この様子は鈴鹿高専のホームページのフォト広報に記載されていますのでご覧いただければ幸いです。

皆様はこの素晴らしい鈴鹿高専の伝統を誇りに、さらに一層発展させていただきたいと思います。それにはこれからの 5 年間、学生の本分である学業を基本に、課外活動、社会貢献などを通じ、自分を見つめ、そして自分をつくりながら、着実に知徳体がバランスよく発達するよう努力することが必要かと思います。そして、「地域に根差し、世界に羽ばたく、クリエイティブな鈴鹿高専」づくりに、さらに言えば地域から信頼される鈴鹿高専に向けて努力していただきたいと思います。そして、皆さんは未来の技術を担うエンジニアの卵です。持続可能な社会づくりに貢献するエンジニアに育ってほしいと思います。

私は、大学で 40 年にわたり交通工学の分野の研究を行ってきました。教え子には留学生も多く、彼らは韓国、台湾、中国、ラオスなどの国に帰り、日本で学んだことを生かした都市交通の整備に励んでいます。留学生が活躍しているのはうれしいことですが、残念ながら日本は韓国や台湾からも後れを取りつつあるとの感を強くしています。

それは 20 年以上も前から研究を進め、いくつか提案した交通システムが日本では実現せず、韓国のソウルや台湾の台北、そして中国の常州において実現していたことです。台北では、ICT の先端技術を駆使して 5000 台以上の規模でレンタサイクルの整備が行われています。市内の各地に自転車が配備され、現金を使わずに気軽に自転車を借り、自由に乗り降りできるシステムです。ビジネスやレジャーなどに利用され、車の交通量を減らし、二酸化炭素削減と健康づくりに貢献しています。常州には、鈴鹿高専と交流協定を結んでいる常州信息職業技術学院がありますが、ここでは BRT (Bus Rapid Transit System) が導入されていました。これも自動車交通量を削減することを狙ったものですが、幹線道路の中央車線をバス専用車線にし、大型の連結バスを頻繁に走らせています。

このようなシステムの基礎となる技術では我が国は先進的ですが、日本において大規模には実施されることはありませんでした。技術が社会で生かされるには、技術を生かす技術、つまり要素技術を統合する総合技術が必要です。日本はこの総合化する技術が弱いのです。総合化には、社会を観察し、その仕組

みを知り、技術を制度化することが必要ですので、皆さんはこの分野に関連する人文・社会科学の勉強も進んで行ってほしいと思います。

最後に、5年間の高専生活を送る上で大切にしていきたいことを三つ述べ締めくくりたいと思います。最近の学生の状況を見ていますと心配なことがあります。それは、再試験や追認試験を受ける学生が多く、留年生も少なくないということです。この原因にはいくつかあると思いますが、まずお願いしたいことは、生活を規則正しく、リズムをもって送ってほしいということです。一日の初めは起床ですが、これは就寝が影響します。朝一番の授業に余裕をもって間に合うよう、早寝早起きを励行してほしいと思います。そして、一日のリズムをつくり、一週間単位、一か月単位のリズムへとつなげてほしいと思います。

二つ目は考える態度を身に付けることです。それには、「なぜ？」と疑問を持つことが出発点です。皆さんは5年生になると、卒業研究を始めます。研究で一番大切なことは、だれも行っていない新規性のあるテーマを見つけることです。それが創造性のある論文へとつながります。課外活動や各種プロジェクトを行うに当たっても自ら考える態度は必要ですので肝に銘じてほしいと思います。

三つ目は自分を探し、創っていったほしいと思います。自分探しは待つだけではできません。行動が必要です。行動には読書と社会経験が不可欠と思います。先だって読んだ某新聞のコラムに、NHKのテレビ小説「ごちそうさん」を引合いにだし、英語の慣用句”You are what you eat.”（あなた自身は、あなたが食べるものからつくられる）を紹介していました。私は、これをもじって、さらに”You are what you read.”　そして、”You are what you experience.”を加えたいと思います。

皆さんには、潜在力があります。その力を信じてください。私たち教職員は、その力を形にするべく頑張ります。あなた方もその期待にこたえ、自らを太く大きくしてください。皆さんのこれからの学生生活が、かけがえのない青春にふさわしい、充実した実りある5年間になることを祈って、お祝いと歓迎の言葉といたします。

平成 26 年 4 月 8 日

鈴鹿工業高等専門学校長
新田 保次